

令和5年7月15日からの大雨による被害と秋田県を中心とした国土強靱化等の効果

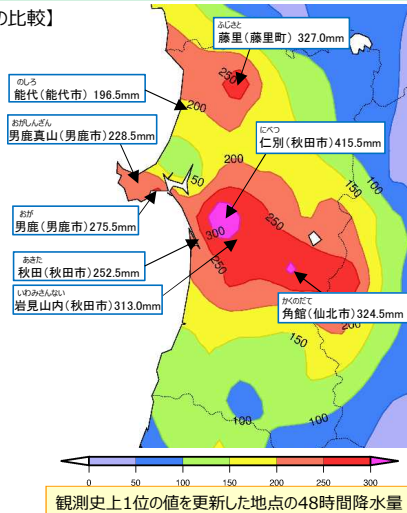
令和5年7月26日9時時点
※数字は速報値【取扱注意】

- 7/14から16日にかけて活発な梅雨前線の影響により、秋田県を中心に記録的な大雨となった。秋田県内の8か箇所の雨量観測所で観測史上1位を記録(48時間降水量等)するなど、過去に雄物川流域で大きな被害をもたらした平成29年7月に匹敵する大雨となった。
- 雄物川では、平成29年7月の大雨被害を契機に再度災害防止対策として実施した河川激甚災害対策特別緊急事業や3か年緊急対策、5か年加速化対策による堤防整備や河道掘削の集中的な対策に加え、土地利用規制(災害危険区域の指定)を組み合わせた輪中堤の整備や玉川ダムによる特別防災操作(流入してくる水を全量貯め込む操作)の効果も相まって、雄物川沿川の家屋浸水被害を回避。
- 一方、雄物川水系太平川の溢水等の影響で秋田駅周辺が広範囲に浸水するなど、秋田県管理河川では6水系16河川が氾濫。気候変動による降雨量の増大に備えた国土強靱化関連の対策を進める必要。

令和5年7月15日からの大雨の状況

【近年の秋田県で発生した大雨等と令和5年7月15日からの大雨の比較】

		平成29年7月22日からの大雨	令和5年7月15日からの大雨
秋田県のアメダス総降水量	期間[日数]	7/22~7/23(2日間)	7/14~7/16(3日間)
	総和[秋田県]	約5,900mm	約6,500mm
観測史上1位の更新数	72時間降水量	6地点	6地点
	48時間降水量	7地点	8地点
	24時間降水量	11地点	8地点
	12時間降水量	7地点	5地点
	6時間降水量	7地点	3地点
	3時間降水量	6地点	-
	1時間降水量	4地点	-
氾濫等発生河川数(秋田県内)	25河川	18河川	
土砂災害発生件数(秋田県内)	51	5件	



※ 総降水量は、秋田県34地点のアメダスで集計
※ 令和5年7月15日からの大雨の氾濫等発生河川数、土砂災害発生件数は、令和5年7月26日までの集計。

国土強靱化等の効果

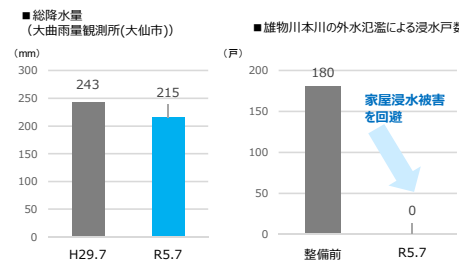
雄物川の河川改修

堤防等の整備により、令和5年7月大雨において外水氾濫による**家屋浸水被害を回避**

【激特事業や5か年緊急対策等による主な対策内容】

主な事業	対策内容	対策期間
激特事業	堤防整備、河道掘削	H29~R4
直轄河川改修事業	河道掘削	H30~R5

【整備効果】



【被害状況】



【土地利用規制を組み合わせた治水対策】

○ 遊水機能を確保しつつ家屋浸水被害を軽減させるため、土地利用規制(災害危険区域)を組み合わせた輪中堤の整備により、家屋浸水被害を回避



平成29年7月の大雨被害を踏まえ実施した対策



ダムの洪水調節効果

ダムの洪水調節(事前放流、特別防災操作を含む)により、**下流河川の水位上昇を抑え、被害を回避・軽減**。【洪水調節実施ダム22ダム(事前放流2ダムを含む)】

旭川ダム(秋田県管理)

緊急放流に移行したものの、下流河川の水位上昇を抑え**秋田市街部における旭川からのはん濫被害を回避**。

岩見山ダム(秋田県管理)

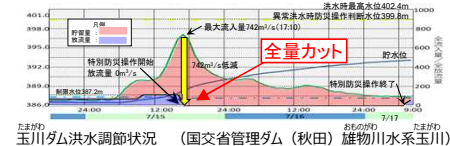
事前放流によりあらかじめ水位を下げたことにより、緊急放流移行の時間を遅らせるなど、洪水調節機能を最大限発揮し、**沿川の被害を軽減**。

森波里ダム(秋田県管理)

事前放流によりあらかじめ水位を下げたことにより、洪水調節機能を最大限発揮。

玉川ダム(国管理)

通常の洪水調節よりも大幅に流量を抑制する特別防災操作(全量カット)を実施し、**雄物川本川の水位を低下させ、被害を軽減**。



事前防災対策の必要性

- 雄物川水系太平川の溢水等をはじめ、秋田県が管理する6水系16河川で氾濫が発生
- 気候変動によって気温が2℃上昇した場合、2040年頃には降雨量が約1.1倍になると予測されているなど、**今後更なる事前防災対策の強化が必要**



今世紀末時点での降雨量の変化倍率(2℃上昇※ケース)

地域	倍率
北海道北部、北海道南部	1.15
その他地域	1.1